

定例会見(平成27年2月4日)

議事次第

○定例会見 代表取締役社長 菅原 秀夫

○会見内容

1. 王子南出入口の開通日時
 2. 首都高 快適走行ビジョンの策定
 3. 板橋・熊野町JCT間改良工事に伴う夜間車線規制
 4. 2020年東京五輪に向けた首都高の取り組みに関するアドバイザー会議(仮称)の設置
 5. 歩行者立入り、逆走等に関する対策の取組状況
 6. 特定更新等工事の手続き状況
 7. InfraDoctorを用いたインフラマネージメントシステム
 8. 技術コンサルティング事業の受注状況等
 9. 最近の通行台数状況
- 参考. ジャイアントレインボーポッキーの販売

○質疑応答

1. 王子南出入口の開通日時

- 中央環状線「王子南出入口」(板橋ジャンクション方面)の工事が進み、2015(平成27)年3月29日(日)15時に開通することになった。
- この出入口の開通により、既に営業中である「王子北出入口」と合わせて、この地域から中央環状線両方向への利用が可能になる。
- 先立って3月7日に開通する山手トンネル(湾岸線～渋谷線)と併せてお使い頂くことで、王子駅周辺と羽田空港などとのアクセスが向上し、王子南入口から羽田空港まで約35分で結ばれるようになる。
- また、中央環状線と並行する明治通りなど周辺街路の混雑緩和も見込まれる。



【参考】

現況写真



【王子南入口（料金所付近）】



【王子南出口】

2. 首都高 快適走行ビジョンの策定

- 平成27年3月7日の中央環状線全線開通により、中央環状線内側の都心部の渋滞・混雑は約4割減少する見込みであり、首都高の道路ネットワークは大きな転換点を迎える。
- 東京オリンピック・パラリンピックや概ね10年後の将来を見据え、既存の道路を賢く使う渋滞対策や快適走行の施策を総合的にまとめた「首都高 快適走行ビジョン」を策定。

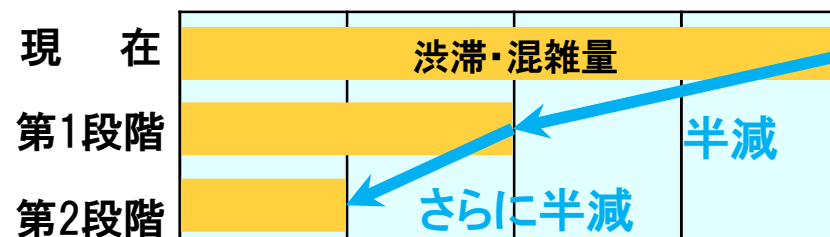


改善目標

[1] 渋滞対策

第1段階：東京オリンピック・パラリンピックに向けて、渋滞・混雑量を半減※

第2段階：概ね10年後には、さらに半減



※ 渋滞・混雑量：40km/h以下の区間の長さ×継続時間（現在との比較）

[2] 快適サービスの向上

ETCを活用した路外PA等、使いやすさの向上

【渋滞対策】

PLAN 1

上り勾配での速度低下対策

- ・速度回復誘導灯の設置
- ・看板や路面標示等
- ・付加車線の設置

（池尻～三軒茶屋間の対策について5～6頁で紹介）

－ 主な実施検討箇所 －
東京港トンネル、池尻～三軒茶屋、
高井戸、扇大橋、千住新橋、加平等

PLAN 2

合流部の対策

- ・時間帯により合流方法を変える
「可変チャネルリゼーション」の導入
- ・入口流入調整
- ・より安全・快適に走行できる区画線運用への変更
- ・拡幅による車線増

（堀切・小菅JCT間、板橋・熊野町JCT間の改良について7頁で紹介）

－ 主な実施検討箇所 －
都心環状線の各JCT、大橋JCT、
西新宿JCT、江北JCT
熊野町JCT、板橋JCT、堀切JCT等

PLAN 3

交通集中への対策

- ・渋滞を避けた利用を促す各種情報の提供
- ・事業中の路線整備及びネットワーク強化に向けた検討

－ 主な実施検討箇所 －
箱崎JCT付近等

【快適サービスの向上施策】

PLAN 4

快適な利用のためのサービス

- ・ETCを活用した路外PA
- ・休憩機能の充実

－ 主な実施検討箇所 －
中央環状線等

PLAN 1

上り勾配での速度低下対策

【池尻～三軒茶屋間(下り線)の対策の紹介】

[1] 速度回復誘導灯の設置

[2] 付加車線の設置

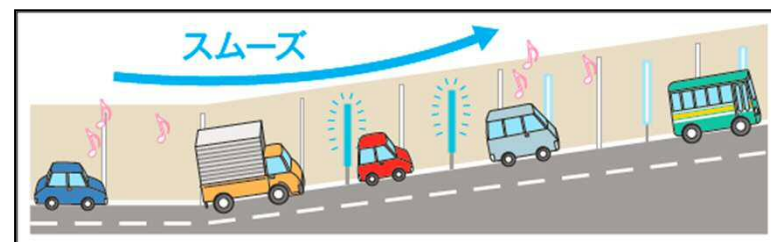
[1] 上り勾配区間の速度低下を防止する「エスコートライト」

エスコートライト：路側に設置した速度回復誘導灯の光を進行方向へ連続的に流すことにより、上り勾配区間における無意識の速度低下を防止するシステム

<対策なし>



<対策あり>



〔整備概要〕 延長：左側 234m (灯具数79灯、間隔3m)

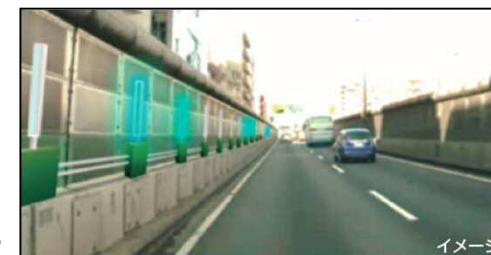
- ・上り勾配による渋滞の先頭付近に重点的に配置
- ・光を流す速さは、規制速度 (60km/h) 相当

当面は朝～夜まで連続点灯(深夜は消灯)

〔特徴〕 縦長の灯具を狭い間隔で設置し、隣り合った2灯を同時に点灯させて流す

ことで、路肩が狭く車間が短い首都高の道路環境においても、光の流れを感じやすいよう工夫

〔今後の予定〕 今月中旬に運用開始後、効果を検証し、設置区間の拡大や他の箇所への展開を検討



PLAN 1

上り勾配での速度低下対策

【池尻～三軒茶屋間(下り線)の対策の紹介】

[1] 速度回復誘導灯の設置

[2] 付加車線の設置

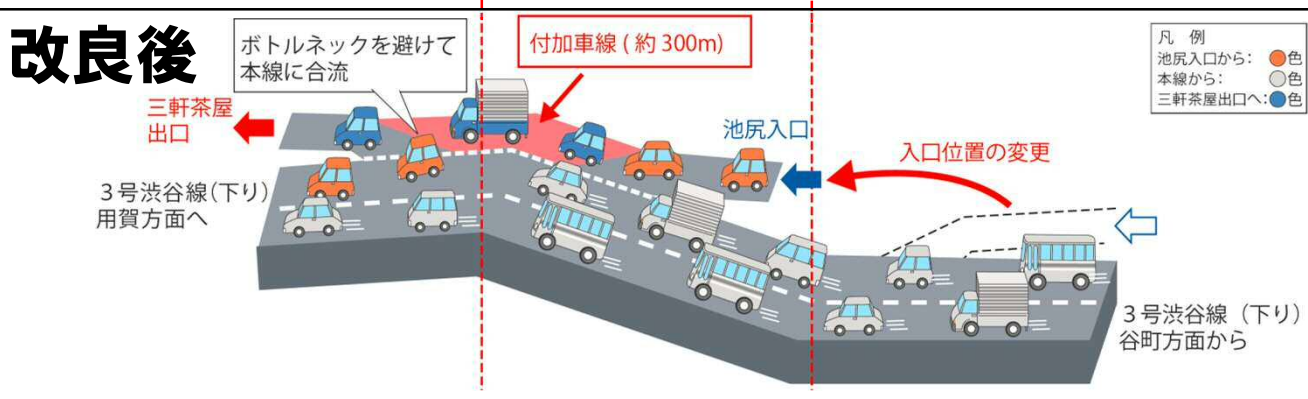
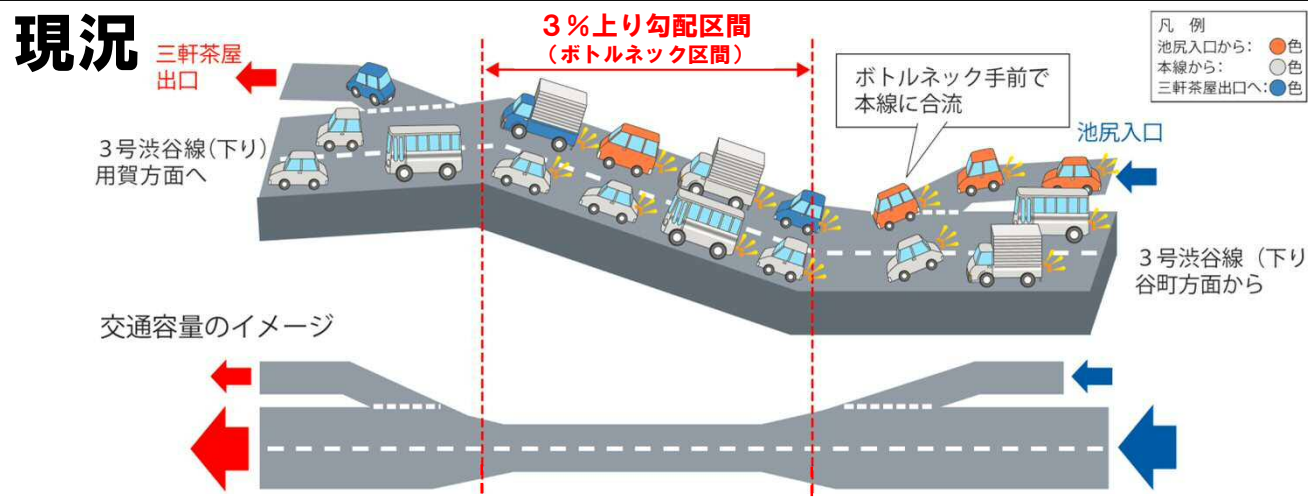
[2] 付加車線の設置

事業年度:平成39年度

(大規模更新と併せて施工し、付加車線の設置や入口の位置変更は先行して実施の予定)

概要:

- ・上り勾配や入口合流によりボトルネックとなっている区間に付加車線を設置し、交通容量を増加。
- ・池尻入口の位置変更によりボトルネック区間の効率的な走行が可能。



PLAN 2

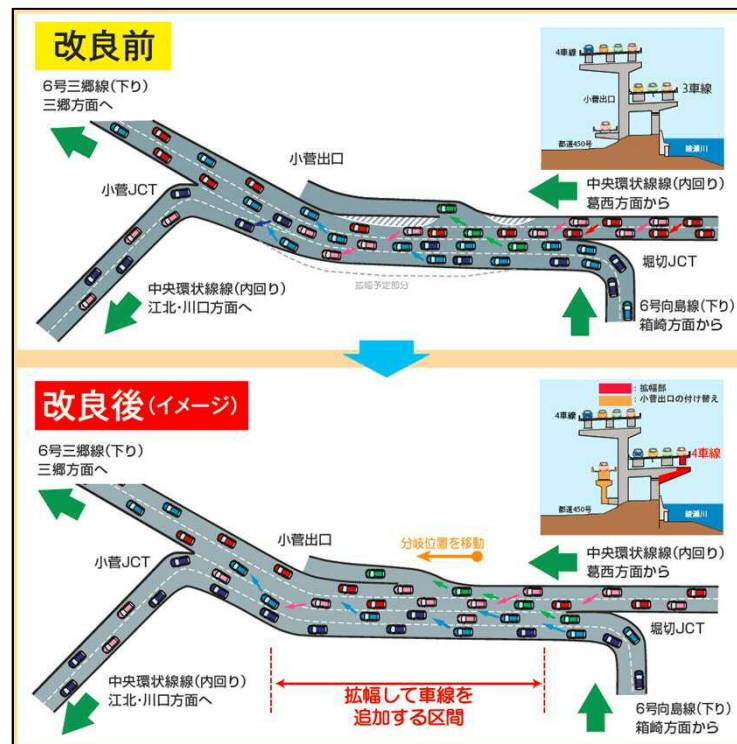
合流部の対策 【堀切・小菅JCT間、板橋・熊野町JCT間の改良の紹介】

拡幅による車線増

○堀切・小菅JCT間改良

事業年度：平成29年度

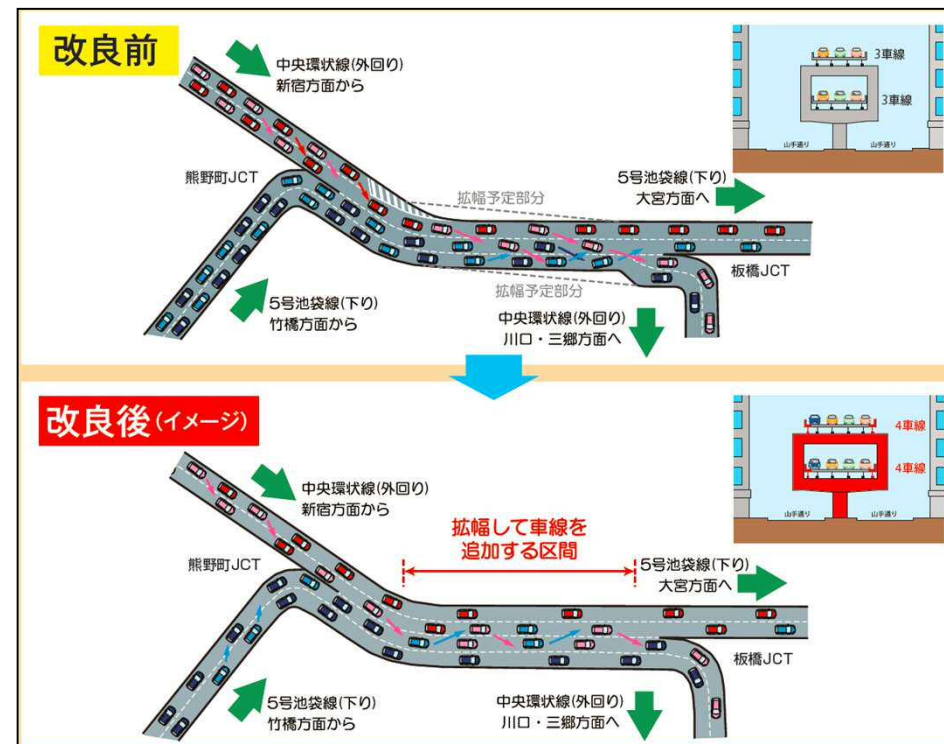
概要：中央環状線内回りの堀切JCT～小菅JCT間を3車線から4車線に拡幅。



○板橋・熊野町JCT間改良

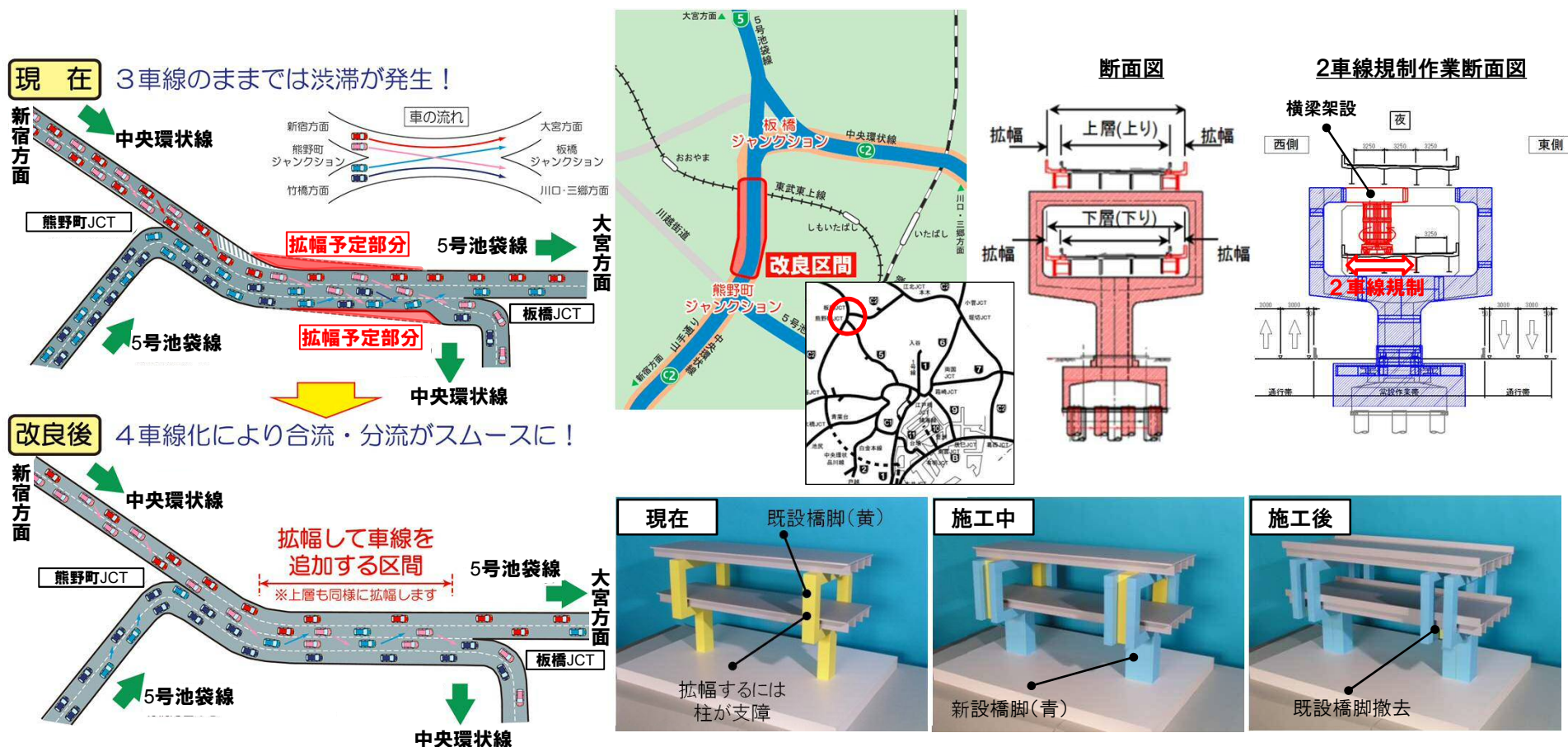
事業年度：平成29年度

概要：中央環状線(両方向)の板橋JCT～熊野町JCT間を3車線から4車線に拡幅。



3. 板橋・熊野町 J C T 間改良工事に伴う夜間車線規制

- 高速5号池袋線の板橋ジャンクションから熊野町ジャンクション間の上層・下層について、現況の3車線から4車線に拡幅する事業を実施。
- 平成27年2月7日(土)から平成29年度まで車線規制を実施。
- 平成27年2月7日(土)から平成28年夏頃まで、土・日・月・祝日の夜間に外回り(下り)を3車線のうち1車線または2車線規制を実施。



4. 2020年東京五輪に向けた首都高の取組みに関するアドバイザー会議(仮称)の設置

- 来年度からの大規模更新・修繕の本格着手を契機として、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた首都高速道路株式会社の取組みの方向性について広く助言をいただくため、下記のとおり外部有識者によるアドバイザー会議を設置する。

名 称：2020年東京五輪に向けた首都高の取組みに関するアドバイザー会議(仮称)

委員長：涌井 史郎

(東京都市大学環境学部教授)

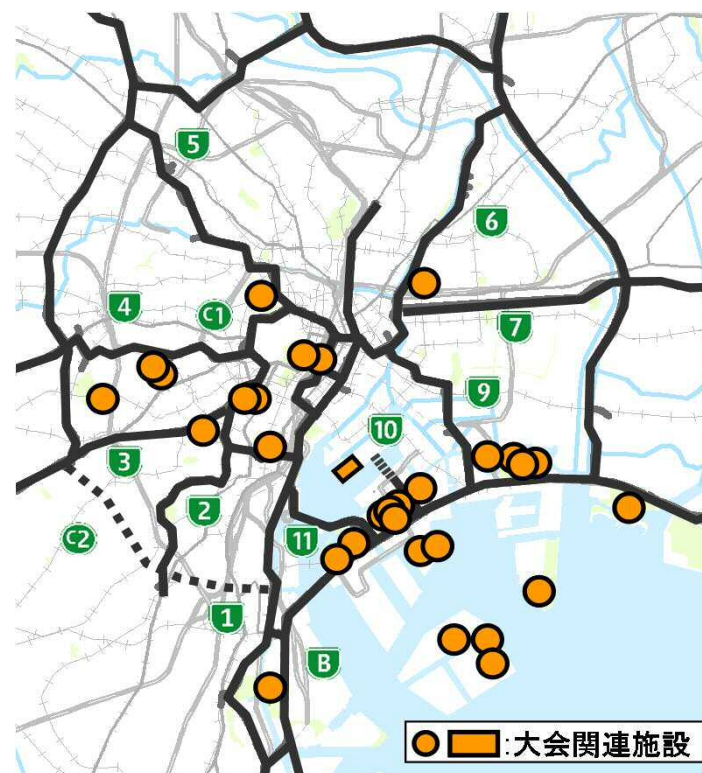
当面の主な検討項目：

- ・首都高速道路構造物・附属物の景観向上
- ・海外からのお客様へのサービス向上 等

【参考】

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催日程

- ・オリンピック 2020年7月24日[金]～8月9日[日]
- ・パラリンピック 2020年8月25日[火]～9月6日[日]



五輪の各競技会場等と首都高速道路ネットワーク

※「立候補ファイル(東京都)」を基に作成

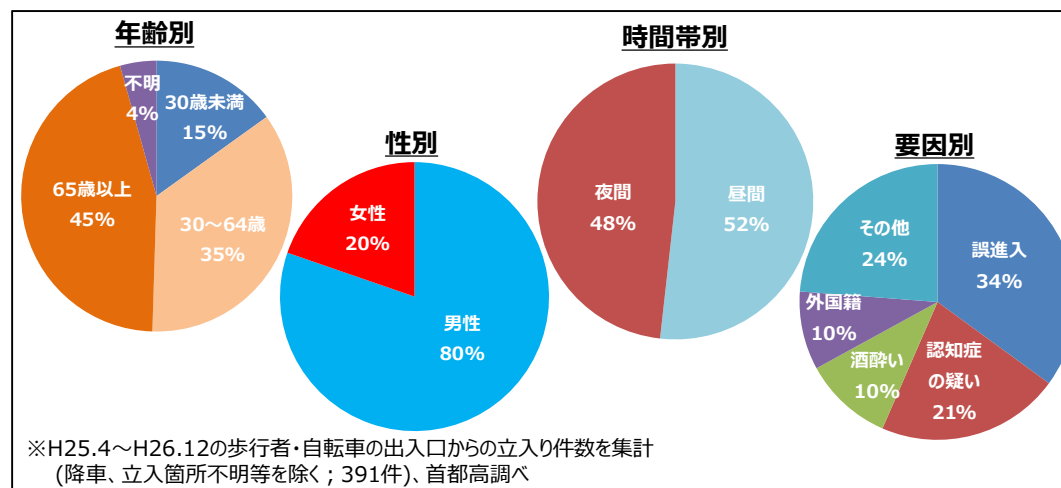
5. 歩行者立入り、逆走等に関する対策の取組状況

(1) 歩行者・自転車の立入り

昨年12月22日に渋谷出口(3号渋谷線(下))で発生した自転車の立入りによる死亡事故を受け、当該出口端部に首都高出口をより視認しやすくするための進行方向を示す路面文字・矢印、高輝度の大型注意喚起看板を設置した。



渋谷出口の歩行者等立入対策



① 現状

歩行者・自転車の出入口からの立入り件数は平成24年度:207件、平成25年度:209件、平成26年4～12月:182件。このうち、平成25年4月～平成26年12月までの391件の傾向は以下のとおり。

- ・ 年齢別では、65歳以上の高齢者が約5割
- ・ 性別では、男性の割合が約8割
- ・ 時間帯別では、夜間(19時～7時)の発生が約5割
- ・ 要因別では、誤進入(道間違え)が約3割、認知症の疑いが約2割、酒酔い等が約1割

② 対策

歩行者等の立入りに対して、首都高と警視庁との連携・調整の場として、平成２３年度に警視庁と合同で立ち上げた「立入者等事故防止対策検討会」を継続して実施中。

また、対策としては、全出入口に立入禁止看板を設置、さらに入口部では路面文字、出口部ではＬＥＤ立入禁止表示板、注意喚起横断幕等を実施している。



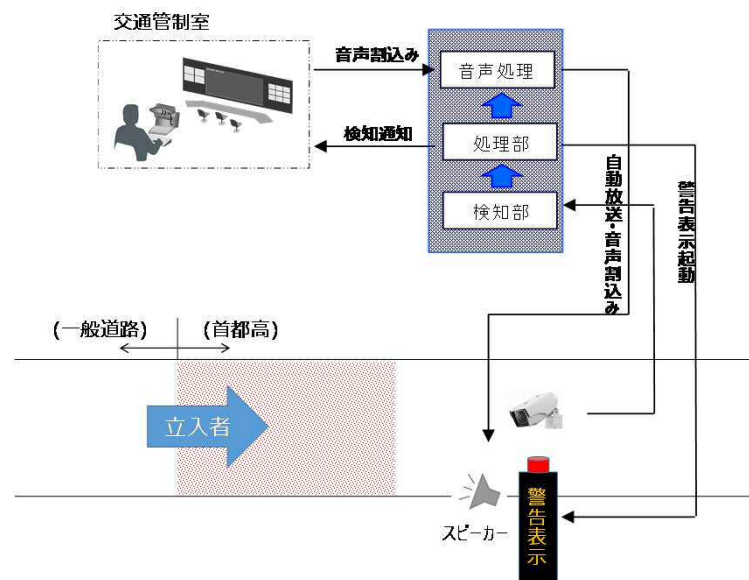
③ 今後の取組み

従前の立入禁止看板等に加え、渋谷出口の状況を踏まえ、現地に合わせた対策を実施していくとともに、「立入検知・警告システム」の検討を進め、発生状況や対策内容の検討など関係機関と調整しつつ、継続的に取組みを実施する。

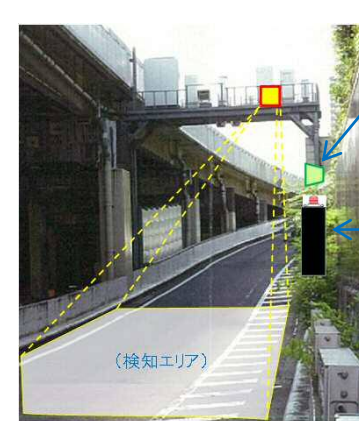
○共同研究「立入者等事故防止対策に関する研究」の試行運用開始

歩行者や自転車等の立入自動検知・即時対応を目的とした「立入検知・警告システム」の民間企業との共同研究について、3月下旬より順次、試行運用を開始し、実運用に向けた検討を進める。

(目黒出入口(2号目黒線)、護国寺出入口(5号池袋線)、大師出入口(横羽線))



「立入検知・警告システム」全体概要



設置イメージ



(2) 自動車の逆走

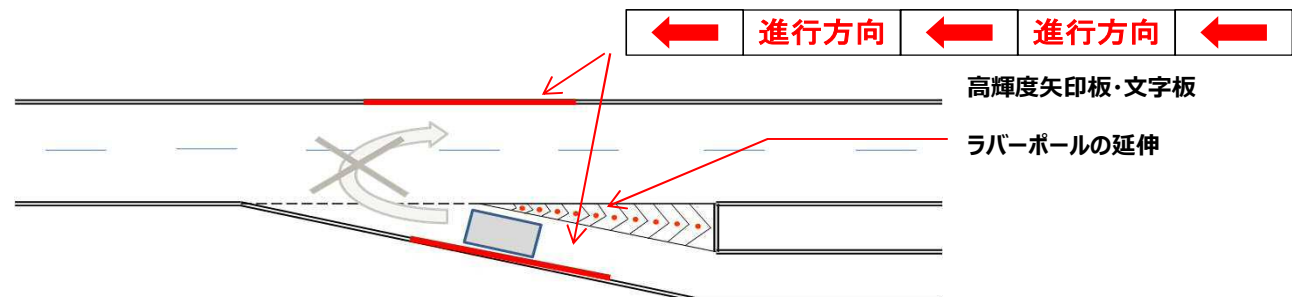
- ① 現状 逆走車の保護件数は平成24年度：2件、平成25年度：2件、平成26年4月～12月：2件。
- ② 対策 現状の、逆走車による重大事故発生を防ぐため、出口部等の誤進入に対し、路面矢印やラバーポール等の注意喚起対策を引き続き実施。



③ 今後の取り組み

- 1月7日に発生した逆走による死亡事故を受け、ジャンクション・入口等合流部でのUターン防止対策の強化として、高輝度矢印板等の設置による取組みを継続的に行う。
- 警視庁との「立入者等事故防止対策検討会」では、逆走対策も含めるなど、関係機関等との連携を強め、交通の安全確保に向け協力を得ながら検討を進める。

対策イメージ



6. 特定更新等工事の手続き状況

特定更新等工事については、早急に事業着手するため、事業実施のための手続きを進めているところ。

＜事業実施のための手続き状況＞

- 平成26年11月17日付で独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構との協定を変更締結し、平成26年11月20日付で国土交通大臣から更新事業の実施について許可取得。
- 本事業のうち、高速1号羽田線（東品川栈橋・鮫洲埋立部）の更新については、道路整備特別措置法第22条に基づき平成26年12月1日を工事の開始日として公告済み（平成26年11月28日）であり、平成26年12月18日付で都市計画法に基づく都市計画変更も告示済み。
- また、高速1号羽田線（東品川栈橋・鮫洲埋立部）については、平成27年1月27日付で工事契約手続の開始を公示済み（工事契約手法は、技術力で企業を選定し価格や工法等を交渉して契約する「技術提案審査・価格等交渉方式」を試行）。

【参考】高速1号羽田線（東品川栈橋・鮫洲埋立部）の工事契約手法

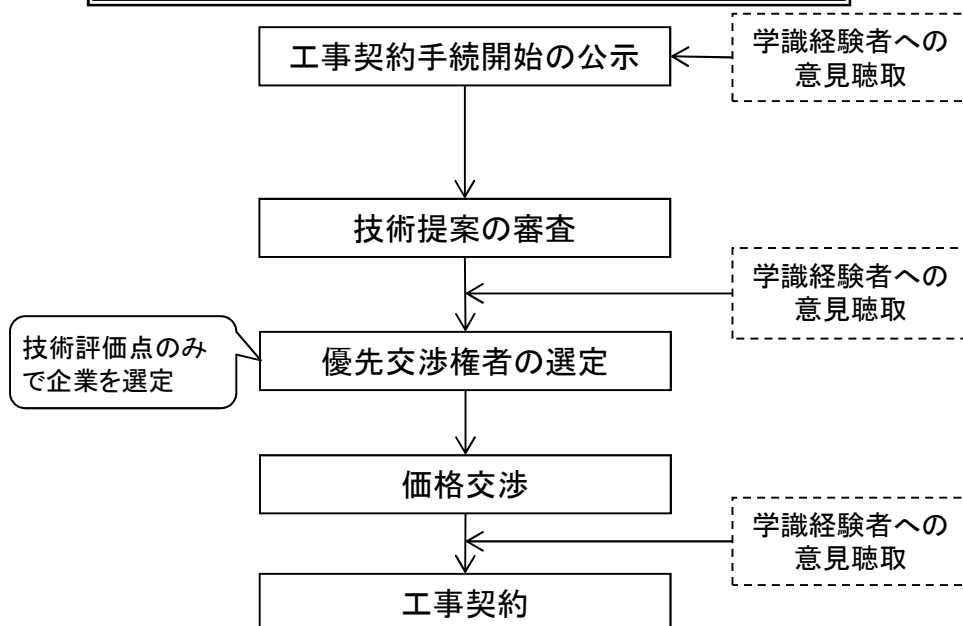
■契約手法選定における基本的考え方

- 本工事は通行止めを行わず、重交通の供用道路を更新する前例の無い工事
- 狭隘な現場条件等、制約が多い中2020年東京五輪までに交通切り替えを行う必要がある厳しい工程条件
- 前例の無い更新工事であり、厳しい条件下で事業目標を達成するためには、工事のリスクを最小化する必要があり、多種多様な構造、各社独自の高度で専門的なノウハウ・工法等の中から最も優れた提案技術の採用が必要

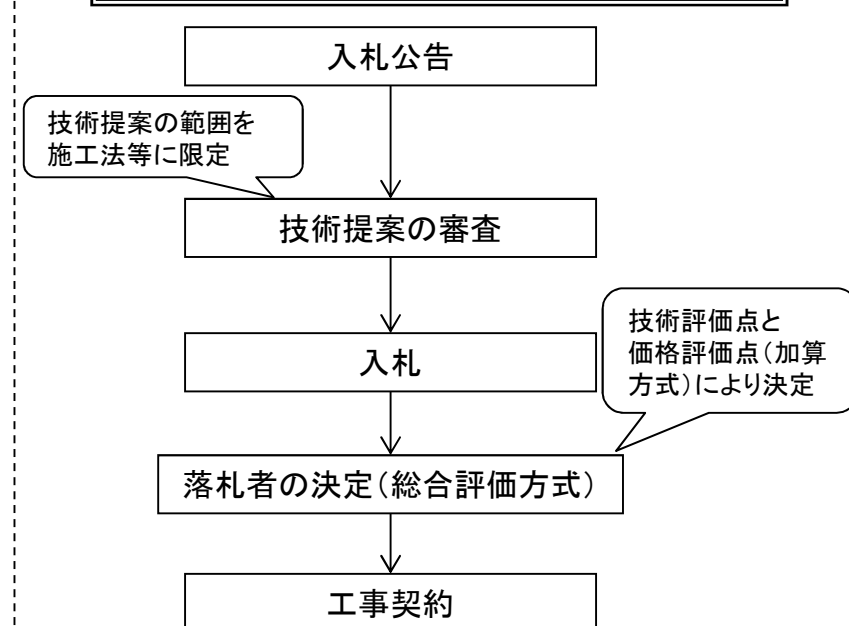


以上より、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」第18条に基づき、「技術提案を公募の上、その審査の結果を踏まえて選定した者と工法、価格等の交渉を行うことにより、仕様を確定した上で契約する」方式を試行的に実施（当社においては、この方式を「技術提案審査・価格等交渉方式」と呼称）

技術提案審査・価格等交渉方式による手続きの流れ



(参考)技術提案交渉方式による手続きの流れ



7. InfraDoctorを用いたインフラマネジメントシステム

GISプラットフォームと三次元点群データを用いて、道路・構造物の維持管理業務を支援するシステム「InfraDoctor」を開発。トータルなインフラマネジメントを実現。

CIM(Construction Information Modeling)

- ・電子データを用いた情報化施工。
- ・3次元CAD図面や施工シミュレーション等電子データの活用。
- ・建設時の初期状態(材料、施工状況、出来形等)の記録。

InfraDoctor

- ・GIS(地図)上で各種台帳を一括管理(CIMデータ、点検・補修履歴、三次元点群データ、全周囲動画等)。
- ・構造物の変状や変位計測による点検業務支援。
- ・点検シミュレーション、構造図や規制図等の作成による点検計画作成支援。
- ・台帳の情報と三次元点群データから、施工状況や点検、計測結果を反映した解析モデルや入力データを作成。

適時補修・補強

- ・InfraDoctorからの解析モデル、入力データで迅速な構造的な性能評価、補修補強設計。
- ・適時補修・補強の実施。

⇒効率的な社会インフラの維持管理を実現。

〔開発コンソーシアムメンバー〕

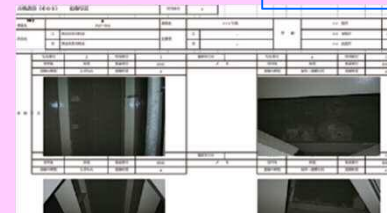
首都高技術株式会社、株式会社エリジオン、朝日航洋株式会社



【GISプラットフォーム】

地図上から各種情報にアクセス

各種台帳



【各種台帳検索】

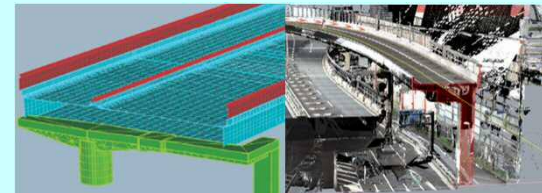
設計・施工データ、図面、点検結果、補修補強履歴 等

三次元点群データ



【点検業務支援】

点群データから変状を確認



【構造的な性能評価支援】

点群データからCAD図、解析モデルを作成、データベースから入力データを作成、性能評価と補修補強設計を実施



【点検計画作成支援】

点群データで点検シミュレーション、協議用資料作成

8. 技術コンサルティング事業の受注状況等

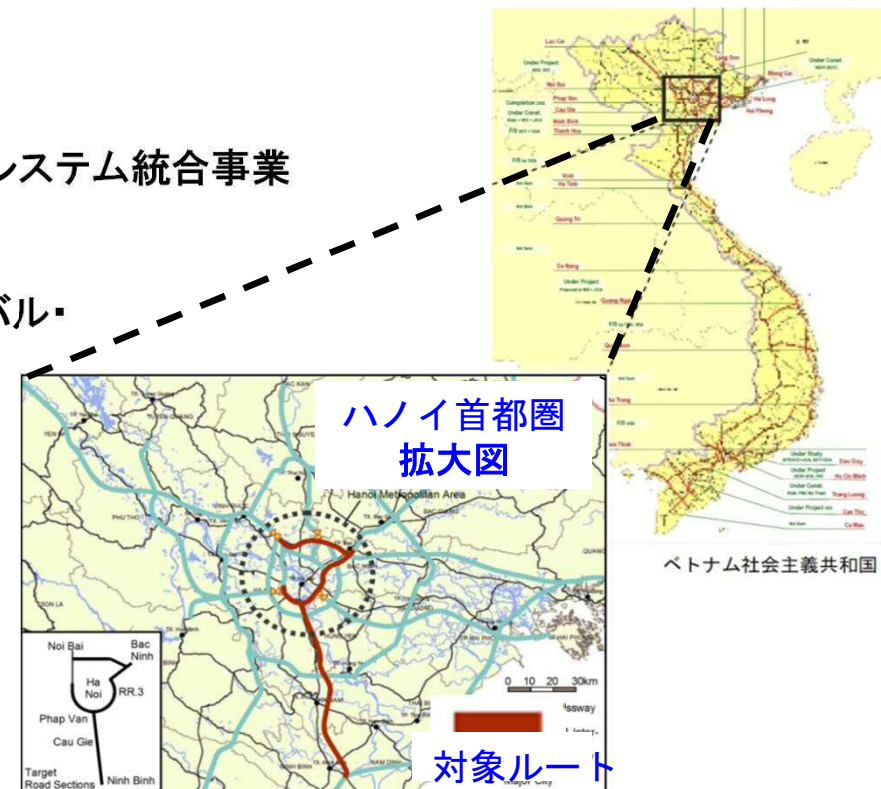
〔1〕 国内技術コンサルティング事業

- 土木分野では、橋梁・トンネルの点検、技術検討・技術開発、橋梁の補修・耐震補強設計等を35件受注。(今年度1月までに)
- 建築分野では、建物耐震診断・建物耐震補強設計を15件受注。(今年度1月までに)

〔2〕 海外技術コンサルティング事業

(1)新規受注案件

- ・件 名:ベトナム国「ベトナム北部高度道路交通システム統合事業
準備調査」
- ・発 注 者:独立行政法人国際協力機構(JICA)
- ・受 注 者:(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル・
首都高速道路(株)・(株)ネクスコ東日本
エンジニアリング・(株)交通総合研究所・
アビームコンサルティング(株)JV
- ・契約期間:H27.1.6~H27.7.17
- ・業務内容:ベトナム北部地域の道路ネットワーク
を包括管理するための交通管制センターの建設
及び路側施設設置の事業について、事業目的、
事業費、事業実施体制等の調査を行う。当社は、
システム計画/ソフトウェア計画を担当。



(2) 海外からの視察・研修受け入れ(今年度12月末まで)

43ヶ国から約410名の海外からの要人や技術者の視察・研修の受け入れを実施。

(3) 海外での活動状況

インドネシア国高速道路会社(MMS)(11月)及びタイ国高速道路公社(EXAT)(12月)とそれぞれ協働で、現地ドライバーへの交通安全意識を啓発するためのイベントを東京スマートドライバー(※)とも連携し、現地にて開催。

[3] 海外道路投資事業

首都高が出資している日本高速道路インターナショナル(JEXWAY)がBSD社(有料道路運営会社)の株式を取得し、インドネシアの有料道路事業に始めて参入した。(12月)

【ジャカルタ市域拡大】



事業範囲 延長7.2km



ミャンマー国研修生への研修実施状況
(首都高技術(株)点検訓練室にて)



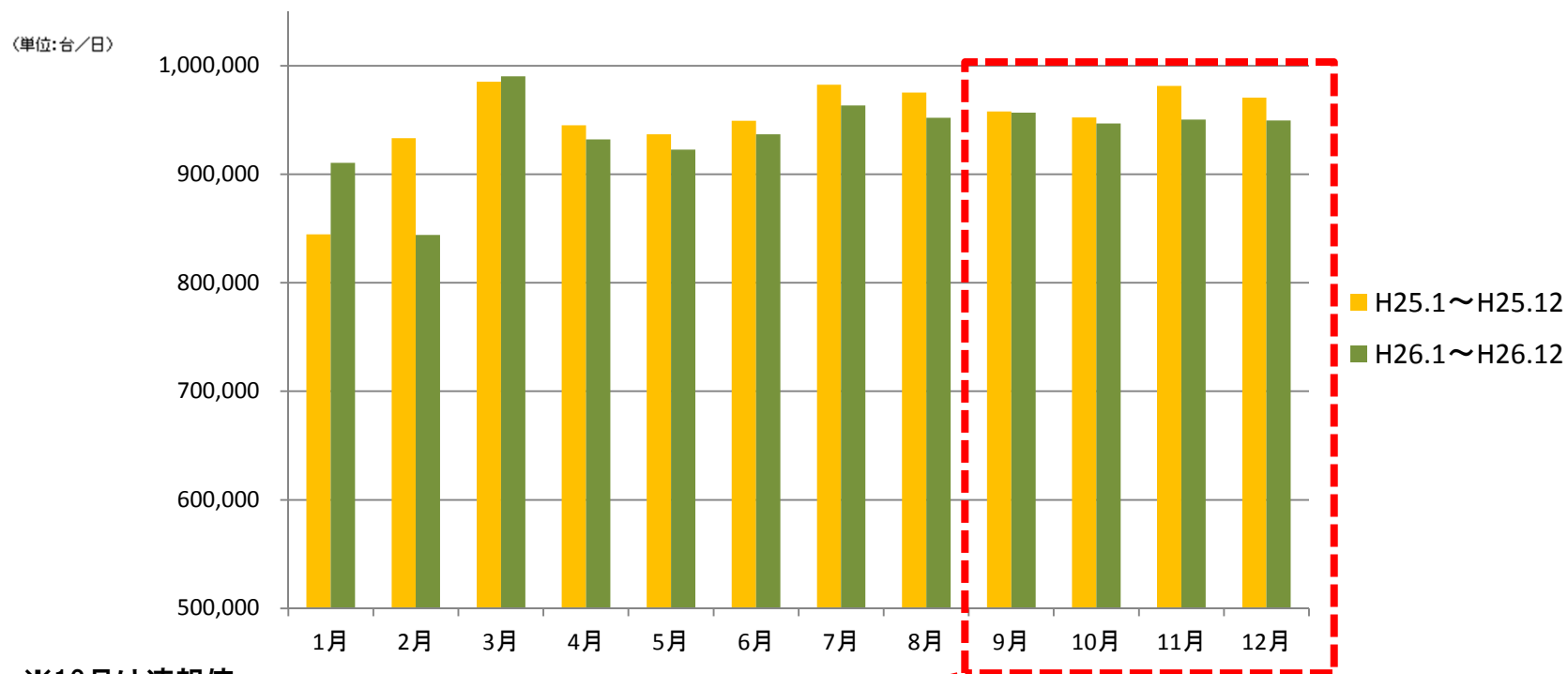
タイ国における交通安全フェア

(※)東京スマートドライバー
首都高の現状を広く伝えるために“気付きのきっかけ”を発信し、ドライバー同士のコミュニケーションを促進することで、首都高の事故を減らすプロジェクト

9. 最近の通行台数状況

通行台数の推移(最近の状況)

- ・ 前年同月と比べて減少しており、個人消費等の弱さの影響等と推測される。



※12月は速報値

	9月	10月	11月	12月
通行台数(台/日)	956,959	946,780	950,402	949,591
前年同月比	99.9%	99.4%	96.8%	97.8%

【参考】ジャイアントレインボーポッキー～レインボーブリッジバージョン～の販売

レインボーブリッジのスペシャルライトアップをより一層盛り上げるべく、当社より江崎グリコ株式会社に働きかけ、レインボーブリッジをパッケージにあしらった「レインボーポッキー～レインボーブリッジバージョン～」を平成26年11月22日より販売。

[1]商品概要

- ・ 全長215mmのジャイアントサイズ(通常は135mm)
- ・ レインボーにちなんで7つの味(バニラ、グレープ、ストロベリー、メロン、バナナ、抹茶、チョコ)

[2]販売箇所

以下の店舗にて販売(東京地区限定販売品)

- ・ 首都高パーキングエリア
(大黒、川口、八潮、市川、平和島(上)、加平、代々木)
- ・ お台場近隣商業施設
- ・ ぐりこ・や(東京地区)

[3]販売価格

1,296円(税込)

